

ワークフェアだより 第5号 2022.6月

北海道北見市を拠点にオホーツク圏全域で、
生活相談や就労支援、子どもの学習支援などに取り組んでいます。

うれしいことに、4月から新しい常勤職員が2名増えた。困ったのは、事務スペースの確保である。やむなく、若者サポートステーションの相談や学習支援えぞりすの勉強に使っていた小部屋を、事務室分室に改造した。

個別空間が減ってしまったので、大きめの衝立を調達してフロアにブースを設けた。目が覚めるようなライムグリーンの布張りで、スタッフは「グリーンルーム」なんて呼んでいる。

かれこれ2年前。新型コロナウイルスの感染拡大により、私たちの現場でも対面による支援の中止や延期が求められた。閉館を検討するため、事務室で関係各所に電話で問い合わせしていると、フロアで談笑する若者たちの声が聞こえてきた。ずっと家にこもっていた人が、やっと人に会いに来るようになったのに。お金がもらえるわけでも単位が取れるわけでもないのに。明日から来ないでくださいなんて。自分たちのやってきたことが揺らぐような気持ちになった。

あんなに悔しい思いで閉めたのに、活動制限を繰り返すうちに慣れが生じたこともあった。反省。夕方。グリーンルームから、学習支援員と子どもたちの声が聞こえる。外では、定時制高校に登校する前の学生やバイト帰りの若者がおしゃべりしている。やっぱり人と人がつながる場はいいものだ。コロナ禍は、私たちが大切にしたいものを、改めて確認する機会になった。

(代表理事 柳谷君予)



↑ 6月に実施した女性のための相談会&居場所づくりイベントで、キャンピングカーを移動相談室にしました。快適です！

2022年度の活動&近況

滝上町との協同事業 ～障がい者・ひきこもりの方の就労～

お仕事体験ツアー3泊4日 全1回、参加者3名

相談会「カケハシ」全8回、参加者4名

▼昨年度は障害や生活困窮、引きこもりなど様々な困りごとを対象にした相談会を初めて開催しました。8回開催し、全4名の参加となりました。今年度はもっと多くの方の力になれるよう、今後も相談会を継続していきます。

▼地域の人手不足を応援するため、アルバイトの同行支援を行いました。近隣地域に住む若者は一緒に挨拶やメモの取り方、コミュニケーションなどを事前に学び、初めての就労を最後までやり遂げることが出来ました！（左写真）

▼お仕事体験ツアーは昨年度も滝上町の多くの方に見守られながら、様々な体験をさせて頂く事ができました。参加者の中には、その後すぐに就労を開始した方が出てくるなど、参加者の大きな経験になったと感じています（下写真）



芝ざくら公園アルバイト



手作り体験



芝ざくら鉢植え作業



ホテル客室清掃体験

オホーツク若者サポートステーション

～15～49歳で働けていない方の就労を応援しています～

8年越しの息の長い支援が実った方も 就職等50人・新規登録54人

▼就職者数は維持

就職者数は前年度と同じく50人で、目標の48人をクリアしました。職場体験で入った協力企業で、そのまま就職に至ったケースが3件（百円ショップ、リサイクルショップ、工場）ありました。

▼障がいグレーゾーンの方への支援

就職のうち、障がい者就労継続支援事業所への就職が6件でした。このうち3件はサポステに通う前は障がいの診断は受けていませんでした。活動の中で困難を自覚されたところで、病院や障がい者手帳などの制度につなぐ過程も支援しました。

▼息の長い支援に実り

登録から8年にわたり就職意欲が高まらず、月1回の交流会のみの参加だった利用者が「働きたい」と言い出し、動きだしたケースがありました。就労準備段階の低い方へのプログラムで息長くつながり続け、本人のタイミングを逃さずにサポートができたことはサポステ冥利に尽きます！



新プログラム「リサイクリエーション」作業の様子



【サボにゃんの畑】で収穫した立派なズッキーニ

- 受託作業** こだわりや様店内清掃、除草、個人からの清掃依頼など 実施124回、参加240人
- お仕事トレーニング** 挨拶や報告・連絡・相談などビジネスマナー講座 実施41回、参加46人
- 就活WEEK** 求人検索、履歴書作成、面接練習など。実施197回、参加420人
- ボランティア活動** 地域清掃・リサイクル活動など。実施64回、参加138人
- 内職作業** 新聞回収袋の折り畳み、求人切り抜き、ウエス作成など 実施211回、参加299人
- 「関係機関で大いに語る会」** オンライン開催。福祉機関・企業など14団体19人参加

社会的居場所づくり支援事業

～生活保護を受給している方の社会参加支援～

新規利用者：10人

前年度からの継続利用者：14人

▼受託作業に参加し企業での清掃活動を継続していた方が『働きぶりが良い』と社長の目に留まりスカウトを受け、同企業に就職することができました。

▼50代以上を対象とした交流会「居場所サロン」を開催。昭和・平成の良き時代を振り返り、奮起する機会になったかなと思います。一方、訪問支援では、布団や押し入れから出てこない方等、本人の顔を見ることも出来ない事案がありました。家族は疲弊しており、家族支援も必要とされることがわかりました。

生活困窮者就労準備支援事業

～ひきこもっている方などの社会参加支援～

新規利用者 1名、継続利用者 3名

▼ひきこもっている方の親御さんから相談が入りました。ただ、本人へのアプローチを提案しても、親御さん自身が受け入れるのに時間がかかるなどの理由で支援件数は少ないままでした。

▼ひきこもり支援に取り組む当事者団体・札幌のレターポストフレンドネットワークの田中理事長が、北見市生活困窮者自立支援ネットワーク連絡会議の際にひきこもりの方の居場所「よりどころ」についてお話しされ、「相談から居場所につながるのではなく、居場所に通ううちに相談につながることが多い」との言葉がありました。そこで、2022年度は就労準備の枠内で、相談前の「居場所」を試みたいと考えています。

オホーツク相談センターふくろう

～生活困窮者の相談支援・オホーツク町村部～

相談件数164件、コロナ禍の影響が続く

▼特例貸付後の自立支援資金の影響が続き、プランを作成して支援する件数が増加しました。今後は貸付や給付終了後の生活困窮者の相談が増加してくると思われるため、引き続き各町の社協や役場などの関係機関の皆様と連携・協働して支援を行っていきたいと思っています。

▼新たに札幌のフードバンクと連携し、必要な方に迅速に支援を届けることができました。
(支援数 5件) ⇒



▼一次産業や持家が多い郡部では繋がりにくい制度だった「住居確保給付金」に、1件の利用がありました。

▼ホームページ内に「ひきこもり」ページを新設。さらに「ひきこもり相談会」を遠軽町で開催しました。町の協力を得て周知のためのチラシ9200部を全戸配布し呼びかけを行いました。

オホーツク学習センターふくろう

～子どもの学習支援・オホーツク町村部～

利用者24名 (小学生9 中学生12 高校生3)

訪問型322回、拠点型11回

通信型10回 (うちオンライン2回)



拠点学習・手作りシャボン玉

▼郡部では障害のある子どもの福祉サービスが少なく、これらに代わり学習支援を柔軟に利用してもらいました。学力向上だけではなく生活や経験の幅を広げるために、成果は大きかったと思います。

▼ある町では、不登校の生徒が訪問学習を利用する場合、学校に出席扱いとして認めてもらうことになりました。管内町村部では初めてのことであり、学習支援事業へのご理解とご協力をいただいたことへ改めて嬉しく思っています。



拠点学習・手彫りのかぼちゃランタン

北見市学習支援えぞりす

子どもの様々なニーズに対し、学習の形を柔軟に工夫し続けたいと考えています

利用者67名 (小学生23 中学生39 高校生4 その他1)

高校進学数13名 学習支援数2029回

▼昨年度も様々な背景やニーズのある多くの子どもたちに出会うことができました。2029回の学習支援、その1回1回の時間の積み重ねの中で子どもが成長していく様子を目の当たりに見せてもらいました。

▼不登校の子どもたち8名が、多様な学びの機会として出席カウントされ、学校からも注目されました。

▼「この場がなかったら、絶対に今でも家から出られてなかった」高校生の言葉です。

▼算数。初めて繰り上がりの筆算に触れた小学生が、「これは便利！」と感動していて、その柔らかな心にこちらも感動しました。



ブラバン工作

イラストクラブ

絵が好きなメンバーが、自由に活動しています

開催数43回、作品展開催1回

▼昨年度も毎週1回の開催を続けました。ルールも出欠連絡も必要なく、自由度の高い集まりは、その時々でメンバーで雰囲気も変わります。絵を描くことが好きというだけで集まった仲間、シャイなメンバーが多いですが、だいぶ打ち解けてきました。

▼北網圏文化センターラウンジスペースをお借りして昨年度も作品展を開催しました。

今年度も同じ場所で開催します。どうぞ見にいらしてください。

7月1日～31日 10時～16時 月曜休み



作品展の様子

スパロウハウス

居住支援事業として本格化

住居を失った方・借りられない方・自宅にいられない方等へ一時的な住居の提供をしています。

新規入居者16名（男性12名、女性4名）

▼需要が高く2021年度はさらに4部屋を貸借しましたが、満室で入居を断る状況もありました。

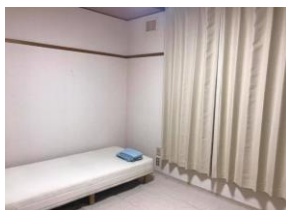
▼住居が確保できない方の受け入れ先として高い需要を感じていますが、一方、身寄りがない・頼れる人がいない方が、保証人や緊急連絡先を確保できないため、転居する住居が見つからず、長期滞在となっている現実もあります。

▽入居動機

失業6件、DV4件、家族不和1件、出所1件、その他4件

▽退去動機

就職2件、転居先決定4件、DV原因別居2件、問題解消1件、支援拒否2件、強制退去1件



女性のつながりサポート事業

女性の孤立を防ぐ寄り添い相談や居場所づくり
個別相談15名、居場所づくり参加者 計19名

生理用品の提供数 計2687個



▼新型コロナウイルス流行による女性の孤立・自殺増加や、「生理の貧困」問題の社会化を受け、北見市と北海道女性協会から受託し、年度途中から5か月間、オホーツク全域で事業を実施しました。

▼「女性」という、当法人が着目してこなかった新たな視点で支援に携わったことで経験値を上げることができました。専任のスタッフだけでなく、他の事業に従事している様々な分野（生活困窮者、若者、子どもなど）のスタッフが、それぞれの経験を活かして関わり知見を活かすことができたと思います。若者サポートや子ども支援の現場で「女子会」「レディースデー」を試みるきっかけにもなりました。

ほのぼののしのかん



父の日

山賀茂



～ご協力をお願い～

＊賛助会員＊ 年会費：一口1,000円

◆特典◆

- ①年3回の会報をお送りします。
- ②就労を目指す方が経験値を得るための作業（清掃、内職など）の委託を会員価格で利用いただけます。

◆お支払い方法◆

直接または振り込みでお願いします。下記までご連絡ください。
北見信用金庫本店(普通)1182495
(恐れ入りますが振り込み手数料はご負担ください)

＊雇用や職場体験への協力をお願い＊

働きたいと願いながら、長期間の無職やひきこもり経験により、履歴書の空白が目立つ方やコミュニケーションが苦手な方、意欲を伝えられない方がいます。

ぜひ、就職の相談に乗っていただけませんか？

体験中は無給で、もちろん費用もかかりません。

＊内職・作業請負の募集＊

長い間無職だった方やひきこもっている方が、社会参加の第一歩として取り組める内職作業を求めています。最低限の工賃がいただければ、社会に役に立っている実感も伴います。

発行：特定非営利活動法人ワークフェア

090-0064 北海道北見市美芳町5丁目2-13 エムリンクビル

0157-57-3136（ワークフェア代表番号）

0157-25-3110（オホーツク相談センターふくろう）

ホームページ：<https://info140929.wixsite.com/workfare>

Facebook：<https://www.facebook.com/workfarekitami/>

メール：info@workfare.link

ホームページ

